



今回は、SGH課題研究・フィールドワーク発表会「1年生の部」の報告です。

◇ 各クラス代表生徒による感想

期 日： 平成29年2月21日(火)
場 所： 関市文化会館
内 容： 「関の刃物を世界に売り込もう」(学年一斉テーマ)
1年生各クラス代表チームによる日本語プレゼン

1-4 津谷 聡

今回、SGH で関の刃物を広める方法を探っていく中で、自分の中で2つの成長があったと感じています。1つ目は、情報収集能力が上がったことです。今まで1つのテーマについて調べるときは、その調べたいワードだけをピックアップして資料を探していましたが、今回の活動の中で、ただそれだけを探すのではなく、様々な機関が出している調査データ、あるいは自分が調べたい事柄に関連していそうなワードからテーマに迫っていくといった新しい情報収集の仕方を学ぶことができました。また、データを収集する上で、そのデータがどこのもので、本当に信憑性があるのかなどにも気を配ることができるようになりました。2つ目は、一人の力の小ささを知ることができたことです。自分は今まで、ほとんどのことは自分でできると思っていました。しかし、今回の活動では、自分の力だけではどうすることもできないような問題がいくつも起き、そのたびにグループの仲間、クラスの仲間に助けられました。そして、いつしか自分は自然に仲間に助けを求められるようになっていました。SGHを通して、自分の力の非力さを知ること、いつでも助けてくれる身近な仲間の存在に気づき、時には仲間に助けを求めることの重要性を知ることができました。決して楽しいことではなかった SGH でしたが、非常に充実した有意義な時間を過ごさせていただきました。



来年のテーマはグローバルイシューになりますが、今回学んだ多くのことは、確実に来年にも活かされるので、それらを存分に活かし、中身のある研究ができるようにしたいです。また、講師の先生方がおっしゃったように、自分たちの主張を成り立たせる根拠が薄いということが、おそらく今年の課題になるので、そこをきちんと踏まえたいうえで、より説得力のあるプレゼンを目指し、来年も熱心に SGH に取り組んでいきたいです。

1-2 市原 沙也伽

私はSGH課題研究フィールドワーク発表会にSGH実行委員として携わらせて頂きました。特に私は閉会式の英語のあいさつをさせていただきました。代表生徒のように何か大きいことに挑戦してみたいと思ったからです。英文を作る場面や練習の場所で、先生方や先輩方の多くの助力を頂き何とかやり遂げることができました。有難う御座いました。

中間発表のたびに磨きがかかっていた1年生の「関の刃物を世界に広めるには」がテーマのプレゼンテーション。私はその裏で空いた時間を惜しまずに使い、一所懸命にプレゼンの改善を試みる代表生徒の姿をみました。私は同じ一年生として誇らしく感じ、同時に憧れを感じました。当日は舞台袖での参加となりましたが、そこでは緊張した表情だった生徒も、舞台上になると堂々

と発表していました。その姿はとても頼もしかったです。

また、二年生の英語のプレゼンテーションを見て感銘を受けました。英語という普段使い慣れない言語を使用しているにも関わらず、あれほどまで豊かな内容を表現できるとは素晴らしいと思いました。

来年度からのSGH活動では、ステージ上で輝いたあの二年生の先輩方の姿を目指し、より一層熱心に研究を行っていきたいと思います。社会で役立つ人間になるためにグローバルイシューについて考えを深めていきたいです。このような貴重な経験をさせて頂き、ありがとうございました。



私たち1年生はグローバルな視点を持ち、「関の刃物を世界に広めるには」をテーマにSGH研究を行いました。まずは、関の刃物産業の現状について、世界に広めることがテーマにあることから、輸出相手国と輸出額の推移について説明しました。これに引き続き、各クラスからの提案がありました。

1-6 上村亮太

私は、今までのSGHの取り組みを終えて、これから生きていくうえで大切な力を身に付けることができたと感じます。それは、正解のない問題に対して私たちの答えを出すという力です。私たちは、普段、正解のある問題ばかりを解いていますが、今回のような問題はどうしても面倒くさくなりがちでなかなか取り組むことができませんでした。私自身も初めは、考えてもなかなかアイデアが出ず、面倒だと思っていました。しかし、今回はグループの仲間がいたから、みんなの意見を聞いたり、話し合ったり、企業の方に話を聞きに行くなど行動を起こすこともでき、私たちなりの納得のいく1つの答えを見つけることができました。



来年は、さらにこれを英語で発表しなければならないので、英語で聞き手に伝わるプレゼンができるように、内容をしっかり固めていきたいし、普段から政治や世界情勢、自分自身の進路についてなど、正解のない問題について考え、物事をいろいろな方面から見られるように努力していきたいと思います。

1-3 三尾 海斗

私たちの班は、動画を用いて世界中に「関市＝刃物」の代名詞を広め、結果として刃物を広めていくことを発表の軸としました。一見簡単そうに見えた計画でしたが、動画を通して「何を伝えたいのか、誰に伝えたいのか、広まるユニーク性はあるのか」を考えることは簡単に済むことはありませんでした。ユニークなアイデアで、万人受けをするものを作成することはほぼ無理だけれど、そのレベルにどれだけ近づけていけるかが必要であるということ、また、SGHで養う問題解決力の一つとして、一つの動画に対し、一貫性を保ちどれだけ深みを持たせられるかを考える力の必要性を痛切に感じました。班員7名で意見を出し合い、クラス代



表として最後まで取り組めたことに自信をもち、来年度のSGHの活動につなげていきたいです。

1-5 山口 榮理香

この約1年間、「美容祭」のテーマを掲げ活動してきました。内容がなかなかまとまらず発想も行き詰まり、本番まで残りわずかの時期まで悩み続けました。しかし、そこから「若者の興味を集める」という根底を再確認し、それに向かって進んでいった結果、文化会館では自信をもって発表することができました。

SGHの活動を通して学んだのは、チームで1つのものを創り上げる困難さとやりがいです。次の「グローバル」なステージにおいて、この経験を生かした上で更に規模の大きい問題に取り組むことを楽しみにしています。



1-1 古田 真菜



今回のSGHを通し、私は、様々な視点から物事を見る事の大切さ、そして仲間と協力しながら内容を深めていく事の大切さを学びました。

始めは、グループ内で意見さえ出ず、『どうしようね』という言葉ばかりが飛び交う話し合いで、とても心配でした。しかしSGH活動の回数を重ねていくうちに、『〇〇だからこうした方が良いんじゃない？』『でも〇〇な場合もあり得るよね』など積極的に意見が飛び交うようになり、深く掘り下げていくことができました。実際に包丁を作るなど、SGHが無ければ、体験することもできませんでした。

そして、1人では絶対にできませんでした。グループの仲間と協力したからこそやり遂げることができました。完成した時は自分たちのアイデアが実際に形になり、とても嬉しかったです。

深く多面的に物事を見て、実際に行動する。この一年で学んだ事を生かし、二年生につなげていきたいと思います。

1-7 大井亮汰

今回のSGH発表会を通じて、僕たちは大きく成長することができました。最初は見通しの甘さなどもあり、中京大学の坂田先生から多くのご指摘を受けました。厳しく指摘されるたびに心が折れそうになりました。しかし放課後に毎日班で集まって何度も討議を重ね、より良いものにしようと努力を続けました。話の展開をより論理的に、よりわかりやすいものに練り直したり、グラウンドで実験してみたり、関連機関に実際に電話で問い合わせしてみたり、伝わる話し方の練習を何度も繰り返したり・・・苦勞の甲斐あって、本番では最高のプレゼンテーションをすることができました。一人では何ともならないことが、仲間と知恵を出し合えば前進できることがわかりました。これまでかかわった方々、ご協力いただきまして、本当にどうもありがとうございました。



一人では何ともならないことが、仲間と知恵を出し合えば前進できることがわかりました。これまでかかわった方々、ご協力いただきまして、本当にどうもありがとうございました。